

活動実施計画書

団体名： 鶴舞・千種エリアマネジメント協議会

1 都市マスとの関連性（A～H、1～3をそれぞれ選択して記入してください。）

B-2, C-1, D-1, E-2, F-3, G-1

2 活動地域の特性、現況、課題

鶴舞・千種エリアは、商業・教育・福祉施設など多様な都市機能が集積し、居住にも適した地域である。エリア内にはオープンイノベーション施設で STATION Ai があり、最新の技術やサービスが集積する拠点として注目を集めている。また、名古屋都心部に近く、小学校や大学、公園、住宅、高齢者施設、病院など多様な地域資源が存在している。地域住民をはじめ、学生、子育て世代、高齢者、地域で働く人、病院利用者など、多様な人々が日常的に行き交うエリアである。

これまでの協議会による社会実験や周知活動を通じ、新たな地域店舗や活動者との協力関係の構築が進み、まちづくり活動への参加主体も広がりつつある。一方で、鶴舞と千種のエリア間は若宮大通などによって空間的に分断されており、多様な地域資源が存在するにもかかわらず、それらを日常的に歩いて行き来し、交流や新たな活動につなげる仕組みや公共空間の活用は十分とはいえない。また、鶴舞学区との関わりは依然として限定的であり、エリア全体が一体となったまちづくりの基盤形成にも課題がある。多様な人々が日常的に歩き、交流し、地域とのつながりを実感できる環境をつくることは、魅力あるエリアの形成につながる。そのためには、高架下や道路空間、公園などの公共空間や地域資源を一体的に活用することで、交流できる居場所を創出し、回遊性を高め、安心・安全で新たな挑戦が生まれる地域づくりを進めていく必要がある。

3 団体の活動実績

※ 過去に地域まちづくりの助成を受けたことがある場合、その実績も含めて記入すること

2023 年度より、学区の夏祭りと共に共催して社会実験を実施している。昨年度は、千種アーススクエア周辺において歩行者天国を実施するとともに、若宮大通高架下空間の活用をおこなった。高架下の活用は昨年度が初の試みであり、千種エリアと鶴舞エリアを分断するような空間に対し、地域の出店や鶴舞中央図書館移動図書館、行政との連携により、人が滞在し交流できる空間を創出した。これにより、これまで通過空間となっていた高架下に賑わいや滞留が生まれ、千種と鶴舞をつなぐ空間活用の可能性を示すことができた。また、準備段階では地域の子どもたちと夏祭りの装飾を制作するワークショップを実施し、地域住民が主体的に関わるきっかけづくりをおこなった。

上記の活動は、昨年度の構想づくり活動助成を活用して実施したものである。これらの活動を通じて若宮大通高架下空間や千種アーススクエア周辺における公共空間の利活用や回遊性向上の可能性を確認し、今後の構想づくりに向けた方向性を整理することができた。

11 月には、鶴舞公園の歴史や地域資源への理解を深めるとともに、鶴舞エリアとの連携強化を目的とした街歩き企画を実施した。鶴舞公園緑化センター職員の案内のもと、公園の歴史、景観、植栽、建造物の成り立ちについて学びながら、鶴舞エリアの空間資

源や活用可能性に関する知見を深めた。また、鶴舞公園関係者、事業者、学生、地域住民がともに歩きながら意見交換を行うことで、エリアを越えた交流や新たな関係づくりにつながった。これにより、今年度の鶴舞・千種エリアの一体的な活用を見据えたビジョン更新に向けた基礎的な知見を得ることができた。

4 助成を受けようとする活動の目的

今年度は、昨年度の活動の中で鶴舞エリアのステークホルダーの参画が活発になってきたことをビジョンにも反映し、地域住民をはじめ、学生や地域で働く人など、多様な主体の想いを取り入れたエリアビジョンへの改訂を目指す。

そのために、ビジョン検討のための社会実験の対象エリアを、より鶴舞側へとシフトし、千種エリアと鶴舞エリアをつなぐ名古屋大学医学部附属病院東（以下：名大病院東）の歩道空間を活用した社会実験を実施する。

本社会実験では対象の歩道空間が一週間ほどの一定期間の継続実施を想定人の滞留を促し、エリアの回遊性を高める場となる可能性を検証する。その成果を踏まえ、高架下や公園へなど周辺と連続する公共空間の一体的な活用方針を検討し、まちの中で住民同士が出会い、地域住民同士の顔の見える関係づくりを促す空間のあり方を探るとともに、将来的なハード整備に向けた知見を蓄積し、ビジョンへと反映することを目的とする

5 活動による今年度の成果目標

今年度は、鶴舞エリアへと活動範囲を拡大し、名大病院東の歩道空間活用に向けた社会実験を実施する。鶴舞エリアと千種エリアをつなぐ歩道空間を活用することで、歩行者の回遊や滞留、交流の可能性を検証する。また、社会実験においてアンケート調査や意見収集を実施するとともに、勉強会にてビジョン作成ワークショップを実施し、地域住民をはじめ、学生や地域で働く人など多様な主体のニーズや課題を把握する。これらの成果を踏まえ、高架下から名大病院前、鶴舞公園へと連続する公共空間の一体的な活用方針を整理し、地域住民をはじめ、学生や地域で働く人が顔の見える関係となるエリアの実現に向けた具体的な公共空間活用の方針や将来像を示したエリアビジョンへ更新する。さらに、昨年度まで実施してきた千種アーススクエア周辺および高架下空間においては、継続的な活動を展開し、事業性の検討を行いながら、ビジョンの具体性・実現性の向上を図る。加えて、社会実験以外でも周辺事業者など多様な主体が企画や出店を通じた参加の機会を設けることで、単にイベントの協力者ではなく、まちづくりの担い手としての輪を広げ、継続的な地域活動の基盤形成につなげることも目指す。

6 助成を受けようとする今年度の活動内容

1-1. 歩道空間活用の社会実験

名大病院前の歩道空間活用に向けた社会実験を実施する。これまで作成してきたビジョンを南側エリアも対象に展開し、歩道空間への什器設置や地域主体による企画を実施することで、人の滞在や回遊、多世代交流が生まれる歩道空間活用の可能性を検証する。また、アンケート調査や意見収集を実施し、歩道空間活用における課題や魅力、地域住民や来街者のニーズを把握することで、鶴舞公園や STATION Ai へとつながる新たなビジョンを描き、鶴舞・千種エリア全体の一体的なビジョンへと更新する。

1-2. 什器の作成

歩道空間活用に向け、滞在や交流を促しながら、歩行者の通行にも配慮した歩道空間に適した什器を検討・制作する。また、社会実験での活用後は、仮設的な継続設置を目指し、日常的な公共空間活用の可能性を検証することで、イベント時だけではない継続的な居場所づくりにつなげる。

7 今年度の活動実施の際に協力や調整等が必要となる関係者等

① 周辺事業者

鶴舞・千種エリア周辺の事業者同士で連携し、企業市民として地域活動に貢献することで、持続可能な活動の基盤を構築するため。

② 鶴舞学区連絡協議会

地域の現状や意見をリアルタイムで把握し、まちづくり活動に反映させるため。

③ 昭和区役所、昭和土木事務所、昭和警察署、その他関係行政機関

歩道空間を、賑わいの場としてオープンスペースを活用した社会実験を実施するため。

8 今年度の活動内容のスケジュール

月	活動内容	詳細
4	夏祭り内容検討	→地域住民・学生・周辺事業者・学区を交え、企画検討 WS などを実施
5	夏祭り準備	→申請等を進める →夏祭りの企画への意見を踏まえ、企画のブラッシュアップをおこなう
6	夏祭り準備 夏祭り装飾 WS 第一回勉強会	→備品の発注や申請等を進める →地域住民の参画を目的とし、夏祭りの装飾を地域のこどもたちと制作する →鶴舞公園のビジョン作成 WS をおこなう
7	夏祭り実施	→継続的に公共空間の活用し、地域に資する夏祭りをおこなう
8	秋の社会実験準備	→地域住民・学生・周辺事業者・学区を交え、社会実験の検討 WS などを開催 →什器のデザイン検討・制作（1-2）

※ この様式は公開されます。

9	第二回勉強会 秋の社会実験準備	→夏祭り・社会実験の振り返りをおこなう →鶴舞公園のビジョン作成 WS をおこなう →社会実験の内容のブラッシュアップを進める
10	秋の社会実験実施	→鶴舞エリアへ向けた社会実験の実施（1-1）
11	ビジョン検討	→社会実験から得た地域住民の意見やデータより、地域住民・学生・周辺事業者・学区を交えて、ビジョン検討 WS などを実施
12	ビジョン検討	→社会実験から得た地域住民の意見やデータより、地域住民・学生・周辺事業者・学区を交えて、ビジョン検討 WS などを実施
1	ビジョン検討	→社会実験から得た地域住民の意見やデータより、地域住民・学生・周辺事業者・学区を交えて、ビジョン検討 WS などを実施
2	ビジョン検討	→社会実験から得た地域住民の意見やデータより、地域住民・学生・周辺事業者・学区を交えて、ビジョン検討 WS などを実施
3	第三回勉強会	今年度の振り返り、ビジョンへの意見をもらう

9（構想策定・実践目的達成）までの想定プロセスと以後の展望

昨年度までの社会実験では、千種アーススクエア周辺に加え、若宮大通高架下を活用することで、これまで通過空間となっていた場所に滞留や交流を生み出し、千種エリアと鶴舞エリアをつなぐ空間活用の可能性を検証してきた。

今年度はその成果を踏まえ、活動範囲を南側へ拡大し、名古屋大学医学部附属病院前の歩道空間を活用した社会実験を実施する。高架下から名大病院前、さらに鶴舞公園へと連続する公共空間を一体的に活用することで、人の回遊や滞在、多世代交流の創出可能性を検証し、鶴舞・千種エリア全体のビジョン更新につなげる。

これらの社会実験は、準備段階からワークショップや地域イベントと連携し、地域との継続的な関わりを構築することで、協議会活動の認知拡大と関係性の強化を図る。今年度は、これまで連携してきた千石学区や STATION Ai に加え、鶴舞学区、名古屋工業大学、名古屋大学医学部附属病院など新たな主体との連携を深め、エリアを横断したまちづくり体制の構築を目指す。

今後は、社会実験で得られた知見をもとに、高架下・歩道・公園などを含めた公共空間の一体的な活用方策を引き続き検討し、行政とも連携しながら、ビジョンの具体化と実践を進める。また、ビジョンは冊子やホームページ等を通じて広く発信するとともに、地域住民や関係者の意見を取り入れながら継続的にブラッシュアップしていく。さらに、持続的な活動体制の構築に向けて、都市再生推進法人化を見据えた組織体制の整備を進めるとともに、公共空間活用や地域主体の取組を継続的な事業へと発展させ、エリアマネジメント活動の持続可能な基盤形成につなげていく。

※ 各欄のサイズ変更は可能ですが、4 ページを超えないように作成してください。

※ 用紙の大きさは日本産業規格 A4 とする。

※ この様式は公開されます。